



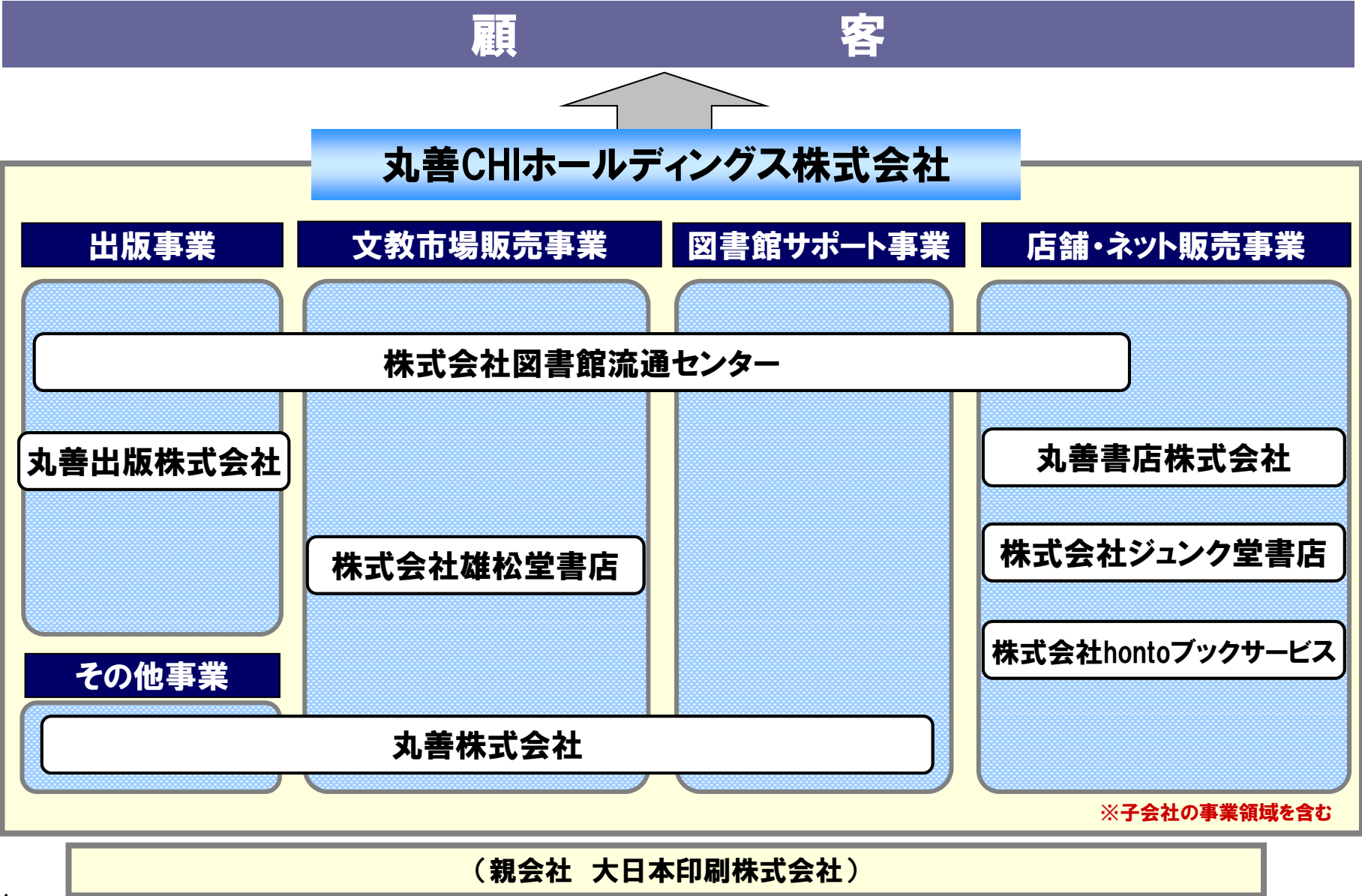
平成26年1月期 決算発表ご説明資料

(当社第4期 平成25年2月1日～平成26年1月31日)

丸善CHIホールディングス株式会社

平成26年3月14日

1. 当社の体制図



2. 当期・平成26年1月期 業績サマリー(連結)

- 売上では、公共図書館向け特別交付金の終了による影響が長期化したこと、書店のスクラップ&ビルドを積極的に進めたこと等により、期初予想を約67億円(△3.9%)下回った。
- 一方、書店事業における収益性改善および全社的なコスト削減による効果が寄与したことで、営業利益は約2.2億円、さらに為替差損が当初予想より改善したことで、経常利益は3.1億円、それぞれ期初予想を上回った。
- 加えて、特別利益の計上や特別損失が当初予想を下回ったこと等で、当期純利益は、期初予想から約4.6億円増となった。

◆平成25年2月1日～平成26年1月31日

(単位:百万円)

【平成26年1月期】	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
業績予想値 (平成25年3月15日発表)	170,000	1,250	1,200	440
実績(本日発表)	163,337	1,473	1,513	904
対業績予想 増減	△6,663	+223	+313	+464
対業績予想 比率	96.1%	117.8%	126.1%	205.5%

2. 当期・平成26年1月期 業績サマリー・前年比

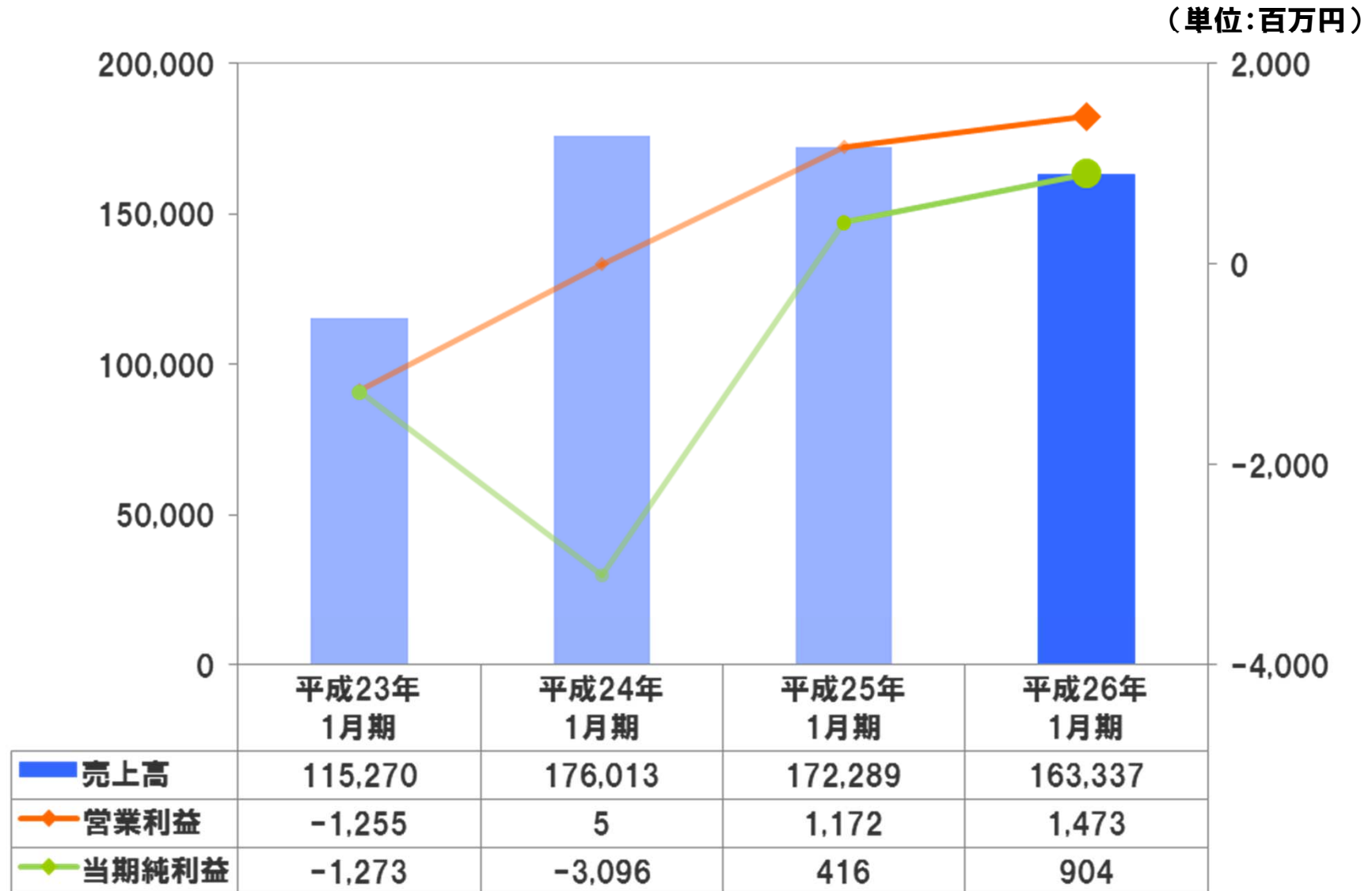
- 前年比では、売上は、大学向け事業で、設備・工事等の案件が当期減少したこと、および研究者向け海外電子ジャーナルの取引形態を仕入販売から業務代行サービスに変更したこと、書店のスクラップ&ビルドを積極的に推進したこと等により、前年比で約90億円(△5.2%)下回った。
- 営業利益では、書店収益性の改善と、全社的な原価改善、コスト削減を進めたことで、前年比約3億円(+25.7%)の増益となった。
- 加えて、為替差損が前年より減少したこと、特別利益の計上があったこと等により、当期純利益では前年比約4.9億円(+117.4%)の増益となった。

◆平成25年2月1日～平成26年1月31日 前年同期比

(単位:百万円)

【平成26年1月期】	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前年同期実績 (平成25年1月期)	172,289	1,172	1,130	416
当期実績 (平成26年1月期)	163,337	1,473	1,513	904
対前年同期 増減	△8,952	+301	+383	+488
対前年同期 比率	94.8%	125.7%	133.8%	217.4%

2. 業績サマリー 推移表(連結)



3. 当期・平成26年1月期のセグメント損益(連結)

◆平成25年2月1日～平成26年1月31日

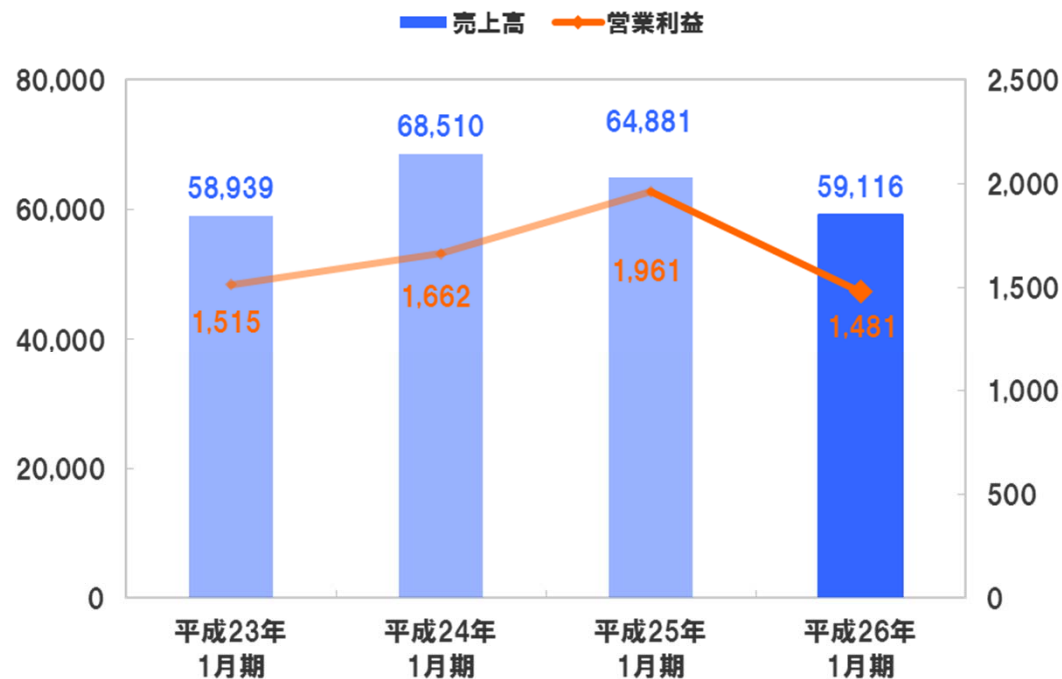
(単位:百万円)

連 結	売 上 高			営 業 利 益		
	当 期	前 期	対 前 比	当 期	前 期	対 前 比
文教市場販売事業	59,116	64,881	91.1%	1,481	1,961	75.5%
店舗・ネット販売事業	73,159	78,657	93.0%	85	△263	---
図書館サポート事業	17,239	15,490	111.3%	1,511	1,084	139.3%
出版事業	4,721	4,914	96.1%	395	258	153.3%
その他事業	9,100	8,344	109.0%	417	591	70.6%
消去又は全社	---	---	---	△2,418	△2,460	---
合 計	163,337	172,289	94.8%	1,473	1,172	125.7%

4. 主要事業 ①文教市場販売事業

(単位:百万円)

	売上高	営業利益
平成26年 1月期	59,116	1,481
対前比	△5,765 (91.1%)	△480 (75.5%)



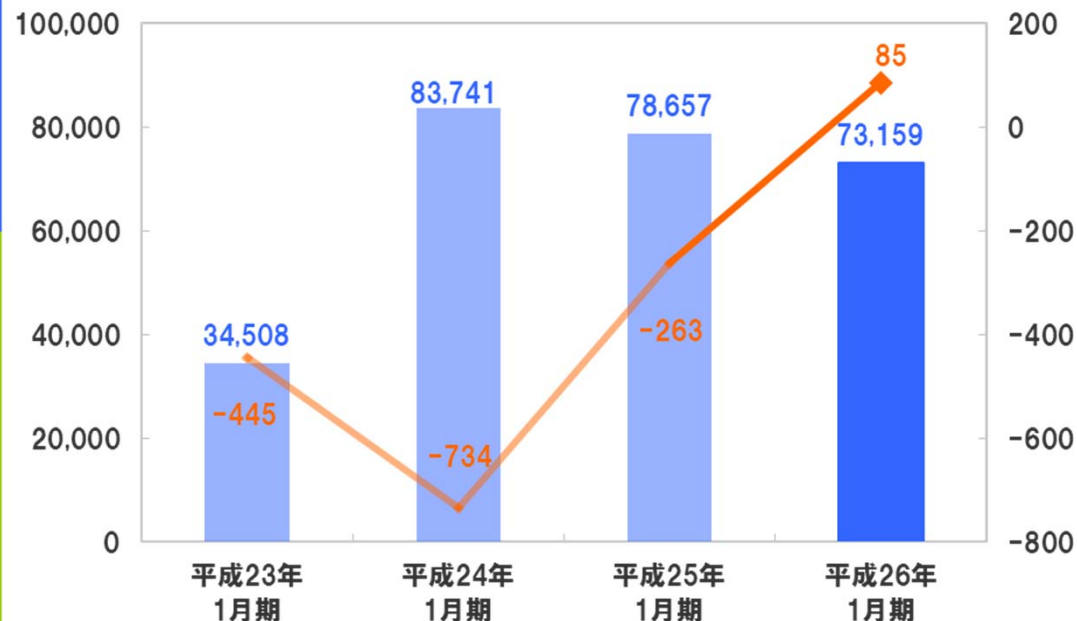
- 大学の予算構成の変化や、補助金執行の遅れ等、大学向け販売市場は全般的に厳しく推移した。また公共図書館向け販売における交付金終了の影響が長引いたこと、研究者向け海外電子ジャーナルの取引形態を変更(売上のみに影響)したこと等により、売上高は約57.6億円の減収となった。
- 継続的な経費削減を進めたが、上記減収要因の影響により、当セグメントの営業利益は、約4.8億円の減益となった。

4. 主要事業 ②店舗・ネット販売事業

(単位:百万円)

	売上高	営業利益
平成26年 1月期	73,159	85
対前比	△5,498 (93.0%)	348 (---)

■売上高 ▲営業利益



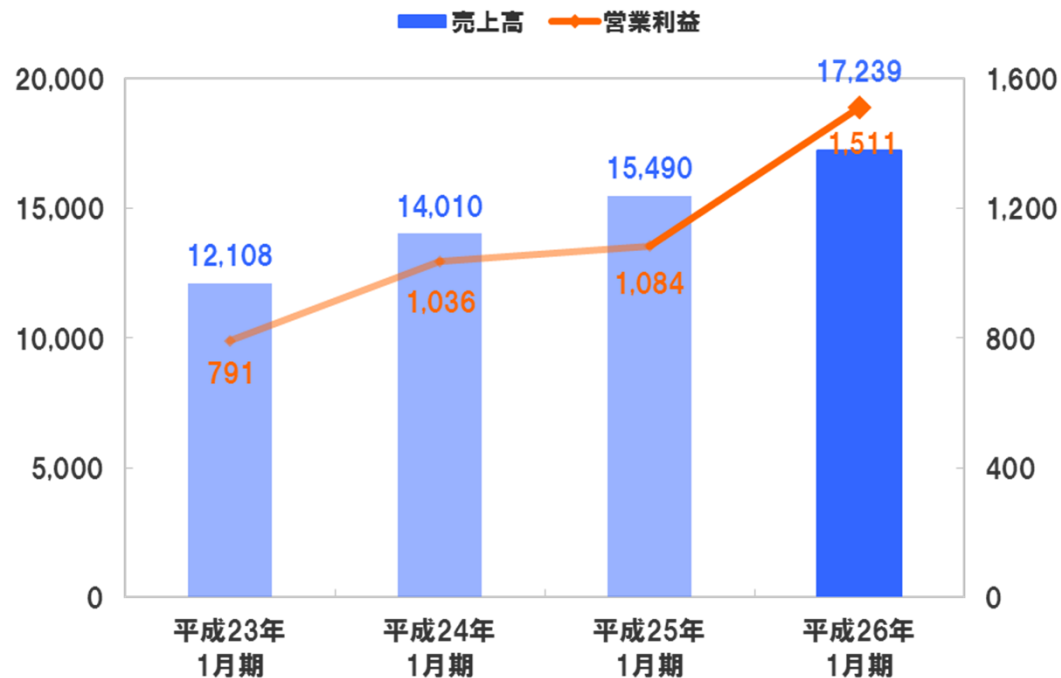
- リニューアルを実施した大型店舗を中心に売上は回復基調。ただし、小型店・地方店はまだまだ厳しい状態が見られ、継続的にスクラップ&ビルドを進めたことにより、前年比約54.9億円の減収となった。
- 一方、営業利益は、原価改善、コスト改善による店舗収益効率の改善施策が奏効したことで、前年比約3.5億円の増益となり、当セグメント営業利益は黒字化し、大幅な改善となった。
- また、当期より社内物流基地を稼働させ、店舗物流網の改善に着手した。

4. 主要事業 ③ 図書館サポート事業

(単位:百万円)

	売上高	営業利益
平成26年 1月期	17,239	1,511
対前比	1,749 (111.3%)	427 (139.3%)

- 図書館受託館数は堅調に増加し、増収増益を確保した。
- 大学図書館・公共図書館等合計で受託館数は期初753館から134館増となり、期末受託館数は合計887館となった。

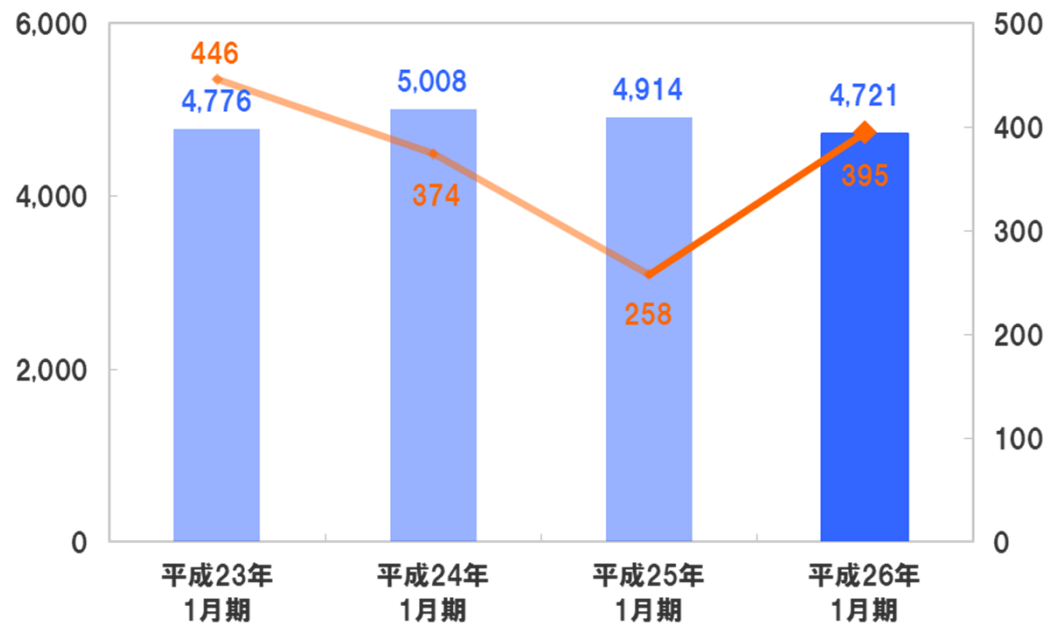


4. 主要事業 ④出版事業

(単位:百万円)

	売上高	営業利益
平成26年 1月期	4,721	395
対前比	△193 (96.1%)	137 (153.3%)

■売上高 ▲営業利益



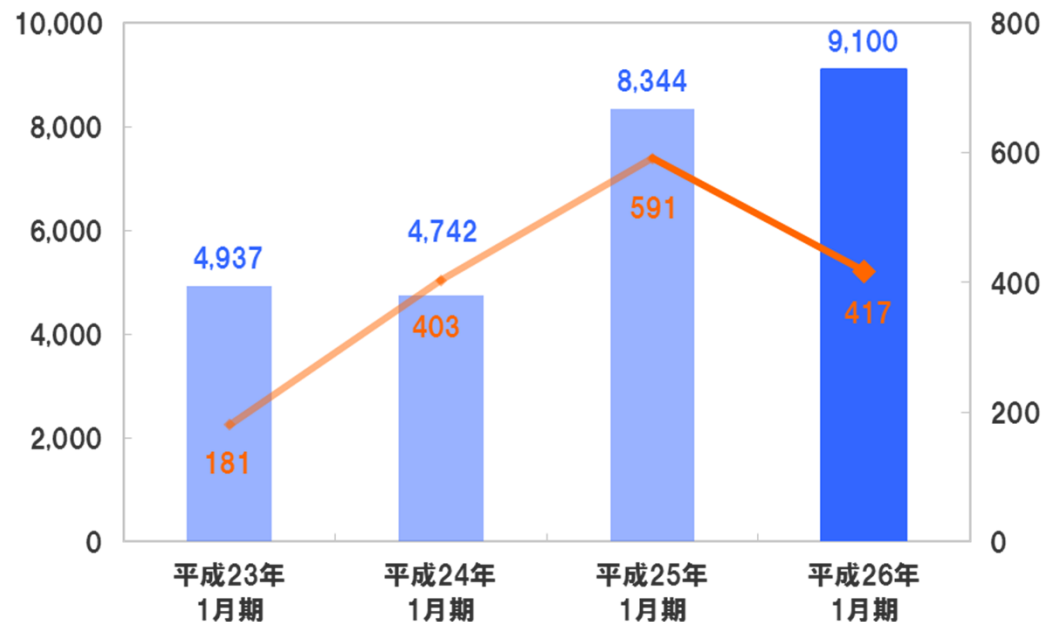
- 一般書(児童書)や映像メディア(DVD)を中心に売上は好調も、前年に専門書分野における海外版元より引き継いだ書籍を発売したこと、また土木建築書改定版の発行等があったことにより、前年比約1.9億円の減収となった。(当期新刊301点)
- 一方、営業利益は、原価の見直し、コスト削減により、前年比約1.4億円(+53.3%)の増益となり、大幅な改善となった。

4. 主要事業 ⑤その他事業

(単位:百万円)

	売上高	営業利益
平成26年 1月期	9,100	417
対前比	756 (109.0%)	△174 (70.6%)

■売上高 ▲営業利益



- PC・スマートフォン等の修理サービス業務(グローバルソリューションサービス(株))が順調に推移した結果、前年比約7.6億円の増収となった。
- しかしながら、店舗内装関連事業において、案件不足の影響により、前年比約1.7億円の減益となった。

5. 来期・平成27年1月期(当社第5期)業績予想

- 平成27年1月期においては、引き続きスクラップ&ビルド、および書店物流網の整備に注力することで、店舗・ネット販売事業における収益性の向上を図る。
- 一方で、文教市場販売事業においては、大学、公共図書館等における顧客ニーズの変化に対応した事業構造改革と新規事業開発に取り組む。
- しかしながら、出版流通市場の動向は引き続き不透明であることから、来期計画については微増収、営業利益微増益を見込む。(経常利益、当期純利益については、当期に一過性の収益があったことから、平成27年1月期は減益見込)

(単位:百万円)

【平成27年1月期予想】	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第2四半期業績予想	86,500	1,360	1,290	810
<u>通期業績予想</u>	<u>167,000</u>	<u>1,500</u>	<u>1,350</u>	<u>480</u>
当期実績(通期)との比較	+3,663	+27	△163	△424
[平成26年1月期通期実績]	163,337	1,473	1,513	904

ご参考資料

当期のトピックス

- 4月 ハイブリッド書店サービス「honto」において、書籍のバーコードからhontoの商品検索ができる「hontoバーコード書籍検索アプリ」の提供を開始。
- 4月 丸善(株)が京セラ丸善システムインテグレーション(株)との連携のもとで、電子教科書配信サービス「Maruzen eText Service」の提供を開始。
- 8月 ハイブリッド書店サービス「honto」において、「hontoネットストア」上で紙の書籍の『試し読み』が可能に。
- 10月 大日本印刷(株)、日本ユニシス(株)、(株)図書館流通センター、丸善(株)の4社共同で、平成26年4月より図書館向けクラウド型電子図書館サービスの提供を開始。
(株)図書館流通センターは、電子図書館サービス(TRC-DL)をリニューアルして、平成26年4月より提供を開始。
- 10月 大日本印刷(株)、丸善(株)が、紙と電子を組み合わせた大学向け教材開発について千葉大学にて共同研究を開始。
- 11月 (株)ジュンク堂書店が(株)くるま工房との業務提携により、ブックスモア鷹巣店をオープンし、商品卸開始。
- 12月 (株)図書館流通センターが、図書館の空間を快適にするための音(KooNe)と香り(air aroma)を使った新しいサービスの提案を開始。

★ハイブリッド型総合書店「honto」サービス 連携書店の拡大

ジュンク堂書店、丸善書店で計66店舗に拡大。サービス連携の対象店舗は順次拡大予定。
(平成26年3月1日現在。文教堂含むhonto提携店舗全体では71店舗)

新規出店・リニューアル店舗

	店名	面積	ブランド	備考
2月	京都朝日会館店	250坪	JUNKUDO	書籍
	岡山シンフォニービル店*	890坪	MARUZEN	書籍・文具
3月	八尾アリオ店*	341坪	MARUZEN	書籍・文具
	メトロ・エム後楽園店*	150坪	MARUZEN	書籍・文具
	四日市店	500坪	MARUZEN	書籍
	盛岡店	90坪	MARUZEN	文具(書籍と合計820坪)
6月	大宮高島屋店	570坪	JUNKUDO	書籍
7月	松戸伊勢丹店	652坪	JUNKUDO	書籍・文具(9月/MARUZEN)
10月	近鉄あべのハルカス店	818坪	JUNKUDO	書籍・文具(MARUZEN)
11月	神戸さんちか店	141坪	JUNKUDO	書籍

★業務提携方式での運営:

9月:丸広百貨店飯能店(MARUZEN)、11月:ブックスモア鷹巣店

*印は、リニューアルオープン

閉店店舗:

<JUNKUDO>

4月:大宮ロフト店、6月:高崎店・COMICS津田沼店、9月:明石店

<MARUZEN>

7月:日本橋高島屋店、8月:町田ジョルナ店、12月:名古屋松坂屋店



MARUZEN CHI
Holdings

本資料には、当社および当社グループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれています。

これらの記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があります。